



三 条 税 務 署 長 賞

『税でつながる命』

田上町立田上中学校 三年 田村 莉央

たむら りお

二年前の夏、私の祖母は救急車に運ばれました。学校から帰ってきたばかりの私はとても戸惑いました。母に事情を聞いてみれば、祖母は心臓の具合が悪くなり、手術が必要だということを話してくれました。そのときは不安でいっぱいでしたが、手術を受ければ良くなると聞いて、少し安心したことを憶えています。

祖母の手術は「ペースメーカー」という機械を鎖骨の下あたりに埋め込むという内容でした。ペースメーカーとは、心臓の動きを助けてくれる小さな機械で、心臓がうまく動かないときに、正しいリズムで拍動するように信号を送ってくれます。しかし、この手術は大きな費用がかかるものでした。手術によって心臓の病気が少しでも良くなるのならそれでいいのかなと思いましたが、大きな費用と聞いてやはり不安でした。そんなときに母から教えてもらったのが「高額療養費」という医療の制度でした。この制度は、病気などで高額な治療を受けたときに所得によって一定の治療費を払えばよい

制度のことです。祖母は手術をしましたが、この制度のおかげで高額の治療を受けることができ、家族の負担は大きく軽くなりました。無事に手術が終え、一週間後くらいに祖母は家に帰ってきました。元氣そうな祖母の顔を見て、私はとても安心しました。

この出来事から、祖母が救急車で運ばれたときの医療費や高額療養費制度などすべてが私たちが日々納めている税金によって支えられていることがわかりました。普段は税金をただ払うものだと思っていました。今回の経験で税は困ったときに助けてくれる大切な仕組みであり、私達の生活には欠かせない重要な役割であることを実感しました。

もし税金や制度がなければ、祖母は十分な治療を受けられなかったかもしれません。今回の経験を通して税金のありがたさを身近に感じる事ができ、税金についてもっと考えようと思えました。将来、私が大人になって税金を払う立場になったときには、「誰かや自分の助けになる」と思いながら納めたいです。祖母は今、元氣に暮らしていて、笑顔で過ごす姿を見るたびに、税金に支えられたことへの感謝の気持ちがいっぱい溢れます。

